

大井町駅前中央通りにおける社会実験の実施について（現状）

1 ウォーカブルのまちづくりとは

出典：国土交通省「まちなかウォーカブル推進事業の概要」より

■居心地が良く、歩きたくなるまちへ

- ・ワクワクする区民が活躍・交流する舞台づくり
- ・できるところからやってみよう
- ・人にやさしい空間・ちょっと寄れる雰囲気づくり



Walkable	歩きたくなる
Eye Level	まちに開かれた1階
Diversity	多様な人の多様な用途、使い方
Open	開かれた空間が心地良い

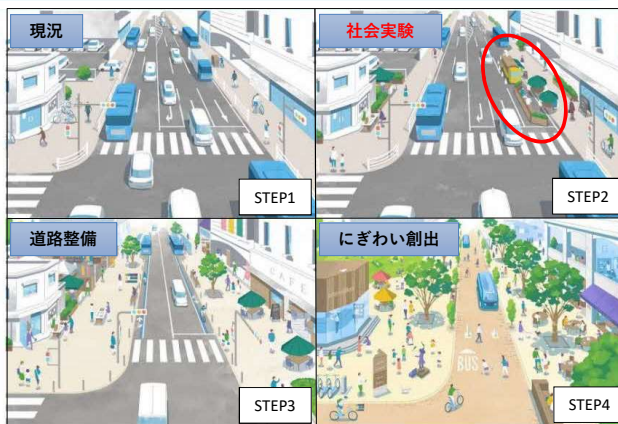
■ウォーカブルなまちになるまで

STEP 1 構想・イメージ検討

STEP 2 社会実験実施・調査

STEP 3 道路整備

STEP 4 にぎわい創出



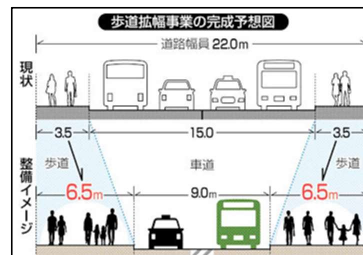
■ウォーカブル参考事例（京都市）

●経緯 四条通りウォーカブル事業

- ・2005年に地元商店街からの要望から、市民と共に検討を重ね実現に至った取組み。
- ・幹線道路の車線数を片側2車線から1車線に減少させ、歩道を拡幅し、歩行者空間を創出し、沿道の滞留時間も増えることで、よりにぎわいを生んだ。【2015年工事完了】
- ・分散したバス停の集約や車の乗降場所、荷物の積卸が可能なスペースを設置



社会実験時の四条通りの状況



2 大井町駅前中央通りの現状・地域の声

現況写真①

歩行者・自動車交通量が少ない



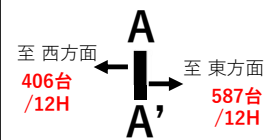
現況写真②

車道機能が駐車場利用となっている

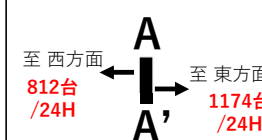


○歩行者交通量調査結果 【調査日時】R4年6月21日 7時～19時

駅前中央通りの12Hあたり交通量



駅前中央通りの24Hあたり想定交通量※（左記調査結果より試算）

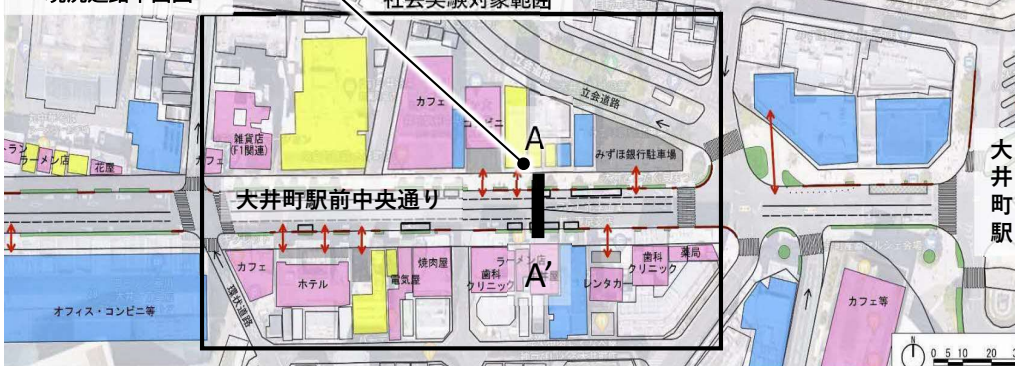


東西方面合計
1,986台/24H
<

※夜間も昼間と同じ交通量と仮定

道路の区分	1日(24H)あたり設計基準交通量(A)
第1級	12,000台/日
第2級	10,000台/日
第3級	9,000台/日

<現況道路平面図>



○地元意見（令和6年度開催 社会実験検討会アンケートより）

- ・大井町トラックス開業による既成市街地の人流変化について
- ・新たな来訪者に大井町の良さを知ってもらいたい
- ・イベントを開催すると人は訪れる 日常的に訪れる場所にしたい
- ・日常的に人通りが多い道になってほしい
- ・憩いスペースとして交流できる場所がほしい
- ・より緑の多い歩道にしたい

大井町駅前中央通りにおける社会実験の実施について（実施案）

3 大井町駅前中央通り社会実験の概要

■概要 大井町駅周辺の日常的な賑わい創出と回遊性向上のために、大井町駅前中央通り（通称どんたく通り）の車道を一部歩道化し、期間を限定して社会実験を実施する。

■位置図



■委託先

委託先：特定非営利活動法人 まちづくり大井
実績：どんたく祭り、ハロウィン、縁日などを主催し、大井町に人が集まる活動を多く取り組んでいる。

■なぜ大井町駅前中央通りなのか

- ・ 広町地区の開業を契機に大井町駅周辺地区に訪れなかった方々の来訪が予想される。
- ・ 大井町西口E地区市街地再開発地区にて立会道路の再整備を含んだ計画を検討。
- ・ 広町地区からE地区につながり、中央通りと大井町駅周辺への回遊性向上のつなぐ場所を創出するため。
- ・ 中央通りの道路の在り方の検討

4 スケジュール

令和6年度	令和7年度 上半期	令和7年度 下半期
社会実験 検討会の開催 実施時期 第一回 8月7日 第二回 12月10日	計画検討 交通管理者協議	社会実験開催時期 秋もしくは春 2～3週間（調整中） 社会実験の調査結果を検証 3月末 大井町トラックス開業 ● 令和8年4月特別委員会にて調査報告 ●

5 調査内容

- ・ アンケート調査
社会実験の取り組みについて、歩道拡幅について、歩きたくない要素など
- ・ 交通量調査
歩行者交通量調査（固定式AIカメラと目視）
※固定式AIカメラ：歩行者交通量や流れおよび顔の表情から利用者の感情も分析
- ・ 駐車場利用調査 近隣パーキングの利用率や周辺の路上駐車状況を調査

6 実験の配置イメージ（案） ※現在、検討中

